

# 平成28年度 施策評価表

作成年月日：平成29年10月12日

課・グループ名	保健福祉課高齢者包括グループ
---------	----------------

施策名	①-b高齢者等の生活支援の充実（介護保険サービスの充実）	4-3-①-b
-----	------------------------------	---------

1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり	①-b 高齢者等の生活支援の充実（介護保険サービスの充実）
①施策のねらいと展開方向	●高齢者が求めるニーズに対応できるよう、地域包括支援センターを中心に、関係機関との連携を図り適切なサービスを支援します。		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	●南幌町介護保険事業計画に基づき、介護施策を総合的・計画的に推進しています。 ●在宅、施設、地域密着型サービスが整備されており、介護保険利用者が必要に応じて利用できる体制になっています。	●今後は高齢者の増加による多様な生活への対応、介護サービスの周知徹底により、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援していくことが必要となります。 ●高齢化が進展し、認知症高齢者や一人暮らし高齢者の増加に伴い、ニーズも多様化・複雑化してきています。	

## 2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化	
	高齢者が増えることに伴い介護認定数は増えていくため、指標としては難しい。介護事業者や医療機関との連携することによって、高齢者個々のニーズに合ったサービスが展開できることから、会議等での情報交換件数を代替指標とする。	成果指標（総合計画・施策評価）		可能
				不可能
		代替指標 ※成果指標がない場合		未計測
	保健・福祉・医療等会議での情報交換件数		○ 可能 □ 不可能	

※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。

②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H25	H26	H27	H28	H28	
目標	平成26年度より 指標変更	430	450	460	460	高齢化率の上昇に伴い、困難事例の相談の件数は増えている。	
実績		431	401	413	413		
達成率		100.2	89.1	89.8	89.8		

評価視点	評価結果	理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）	施策の達成度
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）	
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）	D
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）	

高齢者の増加に伴い介護認定数も増えるため、介護事業者と医療機関との連携を図り、高齢者個々のニーズに合ったサービスが展開できるよう調整・支援する必要がある。

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類

【必要性】事務事業の必要性

【妥当性】町の関与の妥当性

(1) 自主事業(自主)

(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの

(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業

(2) 施設管理事業(施管)

(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの

(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業

(3) 経常的事務(経常)

(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの

(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業

(4) ハード事業(ハード)

#### ①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	実績					H28実績	H29予算	
					単位								
1	地域支援事業(重複)	(1)	保健福祉課	4-3-①-aと重複									高い

年度別施策全体の事業費合計(千円)

H28事業費 12,629

H29予算 27,345

#### ②H29に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	独居高齢者や支援困難高齢者は、今後更に増加することが見込まれるため、在宅医療と介護の連携はより強化を図る必要がある。また、地域住民が高齢者を支える仕組みづくり(総合事業、サロン事業、ボランティアポイント等)をより充実する必要がある。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性	A

#### 4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性	事業番号					平成29年度以降の予算の方向性	
			A	1					
			B						拡大
			C						○ 維持
			D						縮小